

学校教育評価 2学期アンケート結果、及び 今年度7月との比較

アンケート実施：令和元年12月（数字は%）

調査人数：全校243人（低学年133人・高学年110人）

保護者アンケート児童数配布 回答数190人（家庭数177戸）

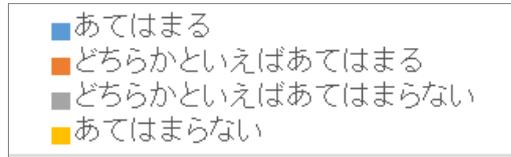
教職員17人

評価：A（あてはまる）

B（どちらかといえばあてはまる）

C（どちらかといえばあてはまらない）

D（あてはまらない）



【開かれた学校づくり】

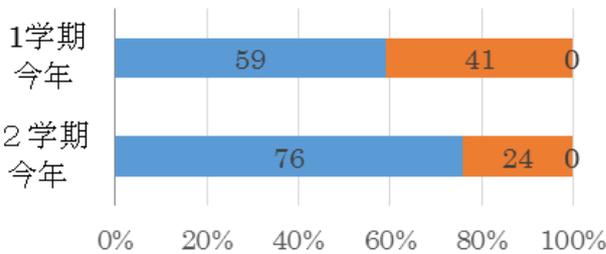
| | 学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。 | % | A | B | C | D | | 達成状況 |
|-----|---------------------------------------|----|----|----|----|---|---|------|
| 教職員 | A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外 | 問1 | 76 | 24 | 0 | 0 | A | A |
| 保護者 | A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外 | 問1 | 53 | 43 | 4 | 0 | A | |
| 児童 | A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外 | 問1 | 48 | 37 | 11 | 4 | B | |

教職員 (問1) 学校からの家庭や地域への情報発信（学校・学年・学級だより、ホームページ、メールも含む）はよくできていると思う。

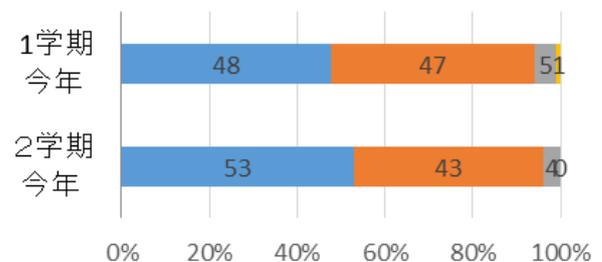
保護者 (問1) 学校便り、学年便り、学校からの様々なお知らせ文書やメールなどにより、学校の様子がよくわかる。

児童 (問1) 学校からのプリント類やさまざまな方法を通じて、自分が頑張ったことを家の人に見てもらっている。

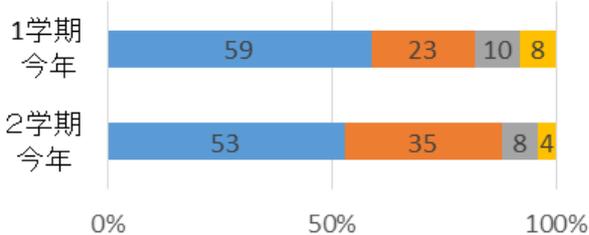
教職員（評価）情報発信・可視化



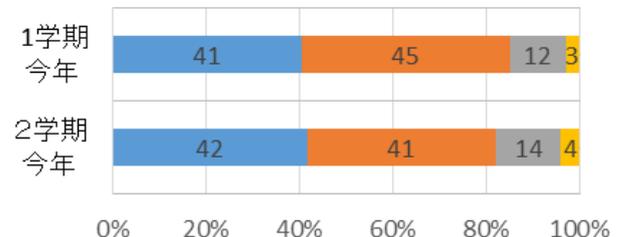
保護者（評価）情報発信・可視化



低学年（評価）情報発信・可視化



高学年（評価）情報発信・可視化



記述欄より

- ・学年通信が多くあるのはとても安心です。高学年だからというわけではなく、男の子はあまり普段の学校の事を話さないなので通信を話題にコミュニケーションがはかどります。
- ・昨年と比べるとメールでの学校の様子のお知らせがすごく減ったので、さみしく思っています。
- ・1年生ということもあり、普段の様子をもう少しお便りで知らせていただけるとうれしく思います。
- ・学校のHPの存在を知り、たまに見させていただいています。校長先生が学校内をよく見て発信してくださっていることに保護者としてとてもありがたく感じています。

- ・昨日先生から連絡があり、クラスでも話し合うということやあった事も教えてくださってありがとうございました。
- ・学校のことをよく話してくれます。楽しく通っていることが一番うれしく思います。
- ・イベント等で明日何がいるの？と尋ねても分からないと言われて、こちらは本当に分からないので細かいことでも連絡して下さると助かります。
- ・学校内での写真などが無いのでおたよりに載っている写真、集合写真など販売をしてほしいです。
- ・私たちが小学生のころでは体験できないような取り組みや地域社会の働きかけを感じます。

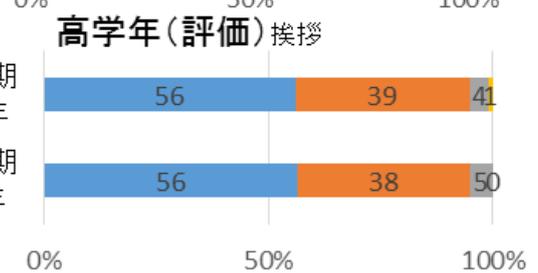
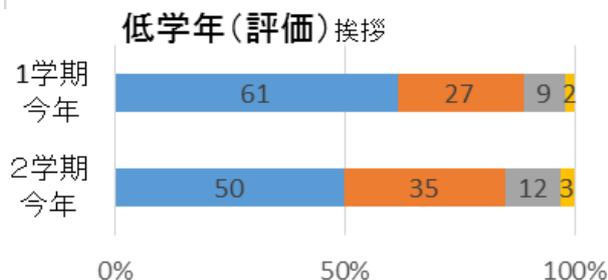
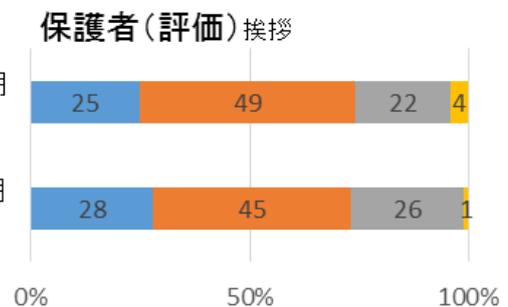
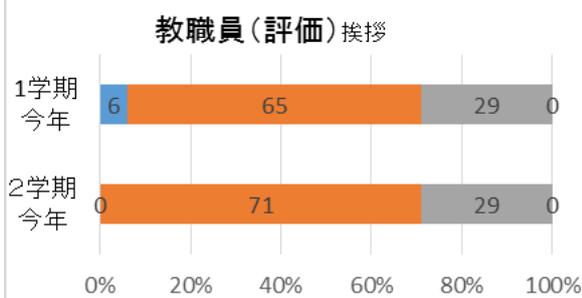
〈開かれた学校について〉

- ・情報発信と可視化については、A評価である。
- ・今後、学校からの情報発信については、できるだけメールやHPを活用されるよう啓発していく。
- ・掲示物については、どの学年も、各担当、担任外、担任、それぞれの分野（児童会・人権・食育・保健・月目標等）で積極的に掲示物の工夫、及び掲示を行っている。しかし、学校からの配布物や掲示物による児童の頑張りについての可視化については、児童による評価が下がる傾向にあるので、今後、児童にも啓発しながら可視化していく必要がある。

【生活指導】

| | 家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。 | % | A | B | C | D | | 達成状況 |
|-----|--|-----|----|----|----|---|---|------|
| 教職員 | A : A+B が 90%以上 B : A+B が 60%以上 C : 上記以外 | 問 2 | 0 | 71 | 29 | 0 | B | B |
| 保護者 | A : A+B が 90%以上 B : A+B が 60%以上 C : 上記以外 | 問 2 | 28 | 45 | 26 | 1 | B | |
| 児童 | A : A+B が 90%以上 B : A+B が 60%以上 C : 上記以外 | 問 2 | 53 | 36 | 9 | 2 | B | |

- 教職員** (問 2) 子どもたちは、学校でも地域でも挨拶するようになってきた。
- 保護者** (問 2) 自分の子どもは、家でも、学校でも、地域でもよく挨拶をしている。
- 児童** (問 2) 家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしている。



記述欄より

- ・子どもの様子や学校での問題があるとすぐに先生方が対応していただき、連絡をいただけるので家でも子どもの話をよく聞くようになりました。
- ・先生方がよく見て下さっているおかげで、ダメなところはその都度注意していただいているので、少しずつですが学んでいると思います。
- ・中央小の子はあいさつをしない。柏原では、知らない人でも小、中、高校生があいさつしてくれる。

〈挨拶について〉

- ・挨拶の評価が高いのは、児童、次に保護者、最も厳しいのが教職員の順になっている。児童は、朝と帰りの挨拶がほぼできていると考え、教職員は、いつでも誰とでも目をつないで挨拶できる子になってほしいと考えている所にズレがあるようにみとれる。保護者の方については、PTAの挨拶運動や地域の見守り活動の中で、ご理解ご協力をいただいているが、今後も継続してお世話になりたい。
- ・地域での挨拶については、恥ずかしがらずに顔を上げて「おはようございます」「帰りました」と言える子になるよう、一人ひとりの児童が、元気で自信を持って生活できるよう支援していくことが大事であると考えている。

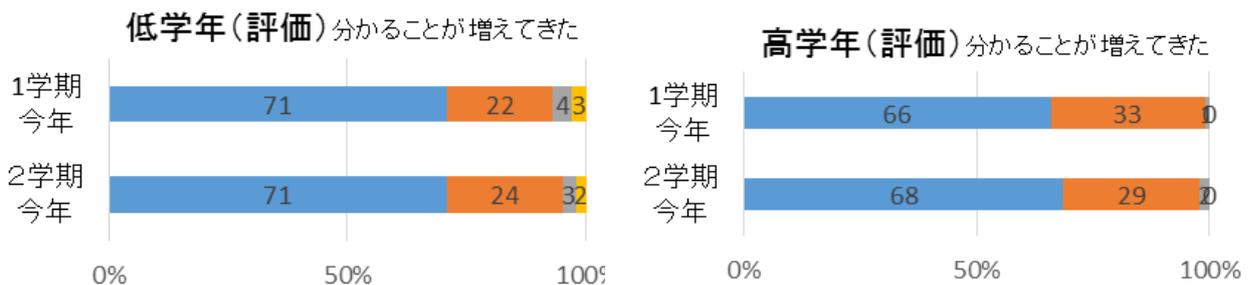
【学習指導】

| | ・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「分かった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。 ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団作りに努める。 | | A | B | C | D | | 達成状況 |
|-----|---|----------|----------|----------|---------|--------|--------|------|
| 教職員 | A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外 | 問3 | 43 | 50 | 6 | 0 | A | A |
| 保護者 | A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外 | 問3 | 46 | 46 | 7 | 0 | A | |
| 児童 | A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外 | 問3 問4 | 70 47 | 27 38 | 2 11 | 1 3 | A B | |

教職員 (項目3) 授業の中で、友だちの意見を聞いたり考えを伝えたりと、学び合いの授業づくりをしている。

保護者 (項目3) 参観日などで、自分の子どもは友だちと学ぶことを楽しんでいる。

児童 (項目3) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。
(項目4) 友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりすることができた。

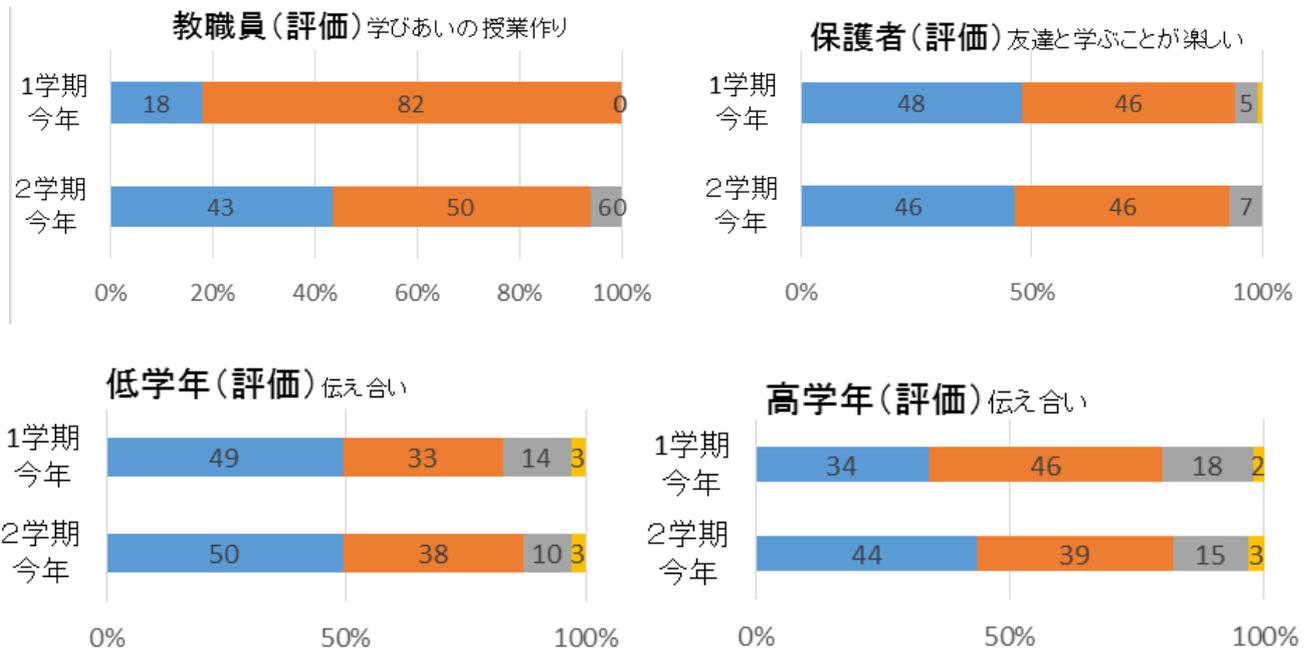


記述欄より

- ・年間に数回読書週間が設定され、本を読む機会を作っていただき、ありがたいと思っています。しかし、家庭内にある本の数は限られています。地域の図書館を利用するのも1つの方法だとは思いますが、時間の都合もあり、なかなか読む本の確保が難しいところです。子どもに学校の図書室を利用するよう話していますが、学校の方からももう少し働きかけをしていただけるとありがたいと思います。
- ・読書量が少ない。西小2年生は毎週末宿題で読書と3行感想文があるそうです。先生方は大変でしょうが、中央小でもやってもらいたいです。
- ・教科によっては1クラスにもっと先生を増やしてほしい。質問しやすい環境をもっと作ってほしい。
- ・何に対しても意欲的に取り組めるようになった。先生方のおかげだと思っています。
- ・子ども自身自分なりに毎日学んでいる姿が見られ、うれしいです。

〈「分かった」「できた」と実感、学ぶ意欲について〉

- ・2学期も1学期同様、分かることが増えてきたという児童が多かった。
- ・今後も教職員が授業の中で、児童一人ひとりの理解を図り、つまずきやすい所やわからない所を分かりやすく指導していくことを続けていきたい。また、児童のふりかえりを活かし、理解を深めることにつなげたい。



〈学び合いについて〉

- ・1学期に比べて2学期の方が、友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりするなど、「学び合い」の授業が楽しいと感じている児童が多いことが分かった。
- ・教職員は「学び合いの授業づくり」を意識して取り組んでいる。主体的に自分の考えを伝えたりする力や、友だちの意見を聞くことができる児童が増えてきたと感じている。
- ・今後も、児童が主体的に自分の考えを持つこと、友だちや先生の話聞く力、考えを説明する力やまとめる力を高める授業づくりの研修を深めていきたい。
- ・また、児童が意欲的に学習参加できる授業づくりをしていく。

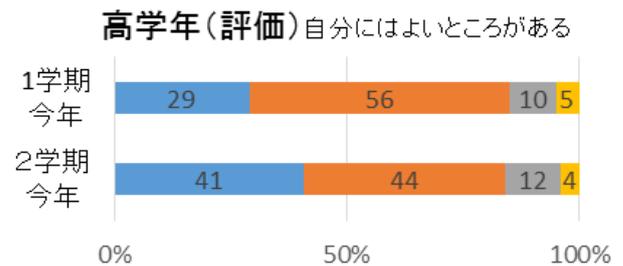
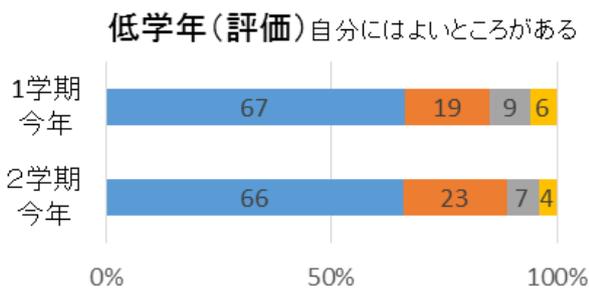
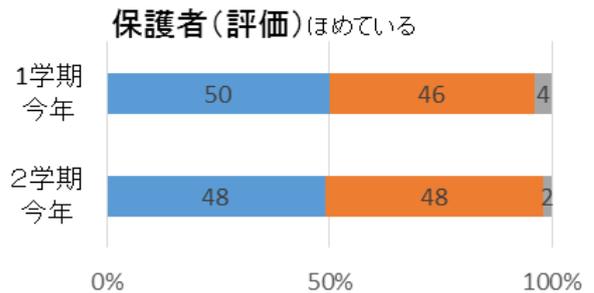
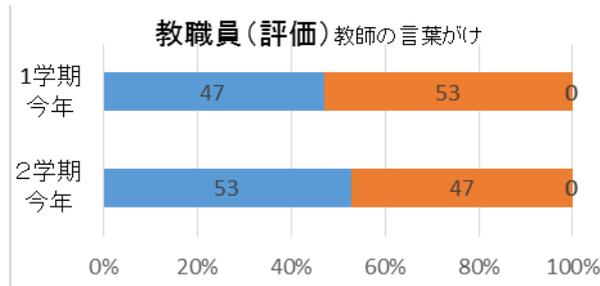
【人権教育】

| | 全領域における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を高め、自立向上する子どもを育てる。 | % | A | B | C | D | | 達成状況 |
|-----|--|----------|----------|----------|---------|--------|--------|------|
| 教職員 | A : A+Bが95%以上 C : 上記以外 | 問4 問5 | 53 29 | 47 59 | 0 12 | 0 0 | A B | B |
| 保護者 | A : A+Bが95%以上 C : 上記以外 | 問4 問5 | 48 56 | 48 39 | 2 5 | 0 0 | A A | |
| 児童 | A : A+Bが95%以上 C : 上記以外 | 問5 問6 | 55 43 | 32 48 | 9 8 | 4 2 | B B | |

教職員 (項目4) 子どもの伸びを認める(以前のその子と比べて)言葉かけの質の向上に努めている。

保護者 (項目4) お子さんのがんばりやよいところをほめている。

児童 (項目5) 自分にはよいところがある。



〈自尊感情について〉

- ・1年を通して、児童どうして友だちや自分のよいところを見つけあう活動やあたたかい言葉かけをする活動、よいところを保護者との対話によって見つける活動を取り入れるなど、人権意識を高める活動を継続的に取り組んでいくことで、「自分にはよいところがある」と思っている高学年のA評価が増えた。
- ・児童を複数の教員の目で見ることにより、良さや成長を感じることができる機会を増やすことができる。次年度より、複数担任制を導入し、さらに、児童を多面的に見る機会を増やしていきたい。また、児童が努力して取り組んでいることに注目し、その頑張りの過程を見逃すことなく評価すること、そして、個に応じた指導により小さな成功体験を積み上げることで、「やればできる」という思いを児童に持たせ、一人ひとりの自信につなげていきたい。

教職員

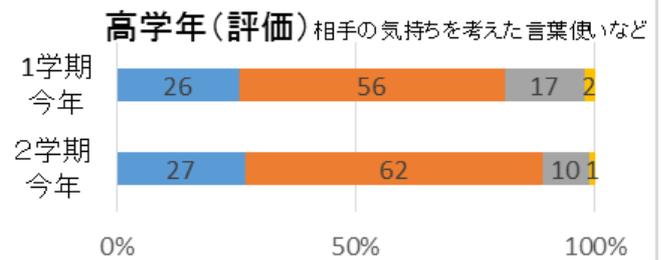
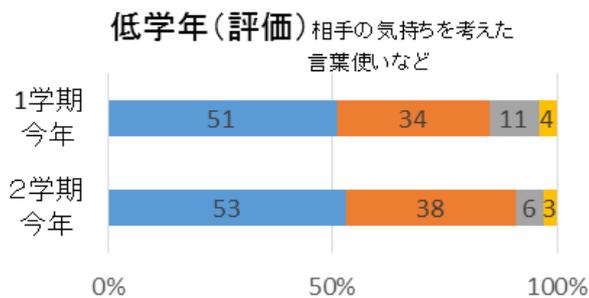
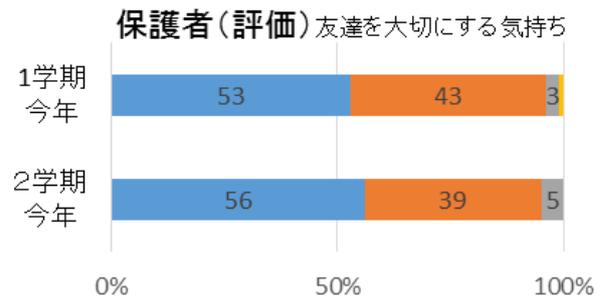
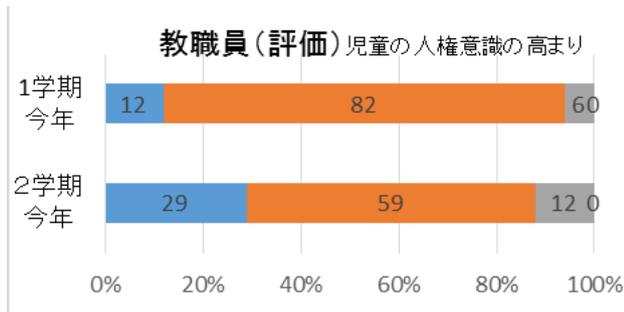
(項目5) 児童の人権感覚や人権意識が育ってきている。

保護者

(項目5) お子さんは、友だちを大切にすることが育ってきている。

児童

(項目6) 相手の気持ちを考えた行動・声かけ・言葉づかいができています。



記述欄より

- ・ 上級生に下級生のお手本となるような言動をとるよう導いてもらえると嬉しいです。

〈人権意識について〉

- ・ 1学期に比べ、教職員や保護者のA（できている）評価が増え、児童の人権意識が育ってきている。人権教育を柱に学習指導、校区事業（かがやきタイム）、月目標を含めた生活指導など、学校生活全体を通して、常に人権を意識した取り組みを積み重ねたことによる成果と考える。
- ・ 低学年、高学年ともに、相手の気持ちを考えた行動・声かけ・言葉遣いができている児童が増える結果となった。特に高学年の肯定的評価が増えた理由として、たてわり班遊びやオリエンテーリング、今年から始めたムキムキタイムや昔遊びなど全校たてわり班の活動を多く取り入れた結果、高学年としての自覚や下級生を思いやる気持ちが高まったのではないかと考える。今後も人とつながる心地よさを感じられるような認め合える仲間づくり・学級づくりを通して、「自分も友だちも大切にできる」児童を育み、一人ひとりの人権意識を高めていきたい。